

# 狙いは「強兵」のための「富国」

安倍政権の経済政策「アベノミクス」が始まって3年になる。第2ステージをかけるが、国民生活は向上せず混迷を極めている。立憲主義を破壊し安保法制を強行した安倍政権に対する批判は野党共闘を生み出した。当初からアベノミクスを批判してきた同志社大学大学院教授・浜矩子氏にアベノミクスの現状と参議院選挙について聞いた。(新聞部)

## 基軸 アベノミクス ① 恐るべき正体

同志社大学大学院教授・浜矩子氏に聞く

安倍政権の経済政策を「アベノミクス」として厳しく批判してこられましたね。

3年間の「アベノミクス」の破たんは明瞭です。国内総生産(GDP)もマイナスが続き、GDPの6割を占める家計消費の低迷も著しい。労働者の実質賃金は4年連続で下がり続けています。食料など生活必需品が値上げされるのに、消費



大阪府歯科保険医協会 敬  
 発行人 志岐  
 大阪府浪速区幸町1-2-33  
 電話(06)6568-7731(代表)  
 http://osk-net.org/  
 4/15 2016年第1232号  
 (毎月5、15、25日発行)  
 ●定価・年間10,000円 月1,000円  
 ●1977年5月23日第三種郵便物認可

同志社大学大学院教授  
 浜 矩子 氏



はま・のりこ 1952年生まれ。一橋大経済学部卒業。三菱総合研究所、ロンドン駐在員事務所長兼駐在エコノミストなどを経て、同志社大学大学院ビジネス研究科教授。著書に「みんなで行こうアベノミクスの向こう側」(かもがわ出版)など多数。

### 視野狭い 成長戦略

差益で輸出企業を後押しし、大きな利益をもたらしたに過ぎません。アベノミクス第2ステージの「矢」からは金融政策が消えたのは、第1ステージで失敗し、これ以上使えないからでしょう。高益を更新しました。アベノミクスの狙いはどこ

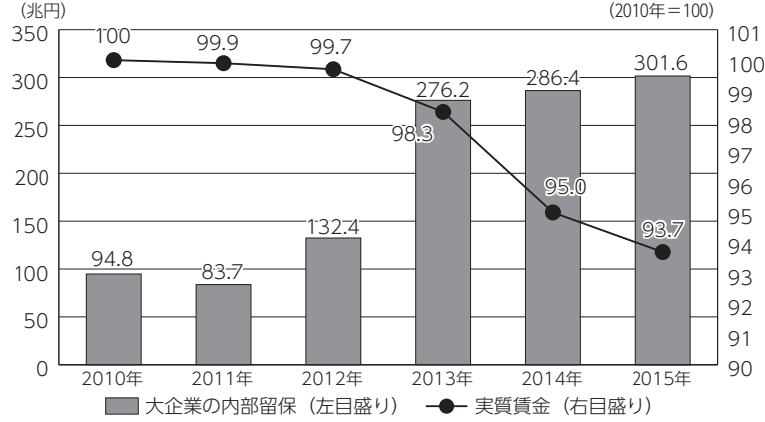
にあるのでしょうか? 強い企業がより強く、大きいものがより大きくなるための視野の狭い政策です。国民生活を良くするための視点はありません。大企業が潤えばおこぼれにあずかれるという「トリクルダウン」

は、グローバル時代という現実にはじけ飛んだと言えます。輸出企業の多くはすでに海外に生産拠点を設けています。海外で儲けた利益は更なる海外投資に向かっているのが現状で、日本国内の設備投資

### 不気味な 政経一致

「アベノミクス」は「第2ステージ」に入っ

### 大企業の内部留保は増えたが、労働者の賃金は減少が続く



※2015年の数値: 大企業の内部留保15年3四半期、実質賃金15年9月 (出所) 財務省「法人企業統計」(資本金10億円以上)、厚労省「毎月勤労統計調査」

### 狙いと 本質 ②

2016年度診療報酬改定

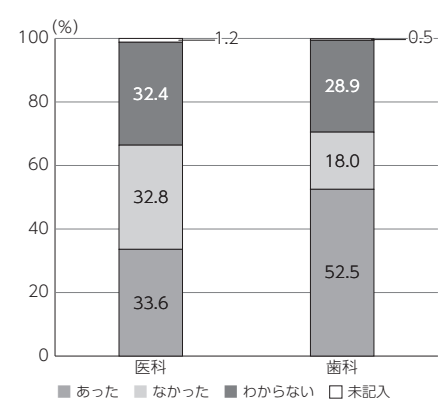
## 深刻化する受診中断

歯科医院を取り巻く国民の状況は厳しさを増している。全国保険医団体連合会の受診実態調査(中間集計)では、半年の間で経済的理由による治療中断が「あった」と回答した医療機関は医科

で33.6%、歯科では52.5%と半数を超えた。必要な治療が受けられない実態が顕著になっている。

治療したくても受診できない状況が深刻化してきているにもかかわらず、安倍政権は参議院選後にさら

### この半年間での経済的理由によると思われる治療中断の有無



2015「保団連受診実態調査」中間集計から

た。安倍政権による社会保障費抑制政策の結果に他ならない。

施設基準の院内掲示ポスターを今号同封

### 署名推進ポスターを同封

**ストップ! 患者負担増**

温布薬、うがい薬、痛み止めなどを、保険から外す。

新たな 定額負担 100~500円

3割削減

協会は、「さらなる患者負担増計画の中止を求める請願」署名への協力を患者に促すためのポスターを作成した。署名用紙と共に今号に同封し、会員に届ける。署名用紙の追加は事務局 (Tel.06-6568-7731) まで。

### 歯界

桜の開花を知らせる情報 が駅頭やテレビにあふれていた。「それがどうした」と横を向いていたら、「それでも日本人か」と怒鳴られそうだった。強い経済でGDPを増やして、国防費を増やしたい。政治的狙いのための経済政策です。「戦後レジームからの脱却」を願う彼らが目指すのは、「富国強兵」の大日本帝国の世界です。「強兵」のため「富国」です。危険な発想であり、不気味で容認しがたい政経一致です。

医療現場では患者が「嫌がる」「指導」や「管理」を医療従事者に押し付け、患者が好む医療や要求する医療を聞いてくれない医師はどこにも見当たらない。患者負担金を耐えられず医療を受けられない人が増えれば高齢による医療費自然増に歯止めがかかり、一見社会が活性化してみたいが、懐が寂しい花見のようだ。